

シーン6 ミミと最後の洗脳H

「ほらあ、お兄さん、ちゃーんとミミのほう、向いてよ。せっかく、恋人おままごと、してあげてる最中なんだから♪」

「ネクタイ締めてあげるね、もっと身体、ミミのほうへ近づけて♡」

「あんっ、お兄さん、ちょっと近づきすぎ」

「ミミのお胸、当たっちゃってるよお」

「そしたら、次はミミの作った唐揚げを、あーん、だよ」

「ほら、お口しっかりあけて、はい、あーんっ♪」

「くすす、ね、美味しいでしょ。でも、お兄さんちょっと不服そうだね」

「やっぱ、お兄さんはザーコ♡、ざこ♡って罵られながらのほうがご褒美になる？」

「あは、心の底からザコヒーローなんだね」

「じゃあ、ミミと裸プロレスごっこにプレイ変更♪」

「オチンポもぎんぎんにフル勃起してるし、ちょうどいいよねッ」

「じゃあ、お兄ちゃん、服脱いで、今すぐ、ほらほら」

「ぜーくんぶ脱ぐの、そう全裸だよ。くすすっ。プロレスごっこだからね」

「裸になったら、ベッドに仰向けになってね」

「ミミは、んしょ、んしょっと、おパンツだけ脱いでっ」と

「あはっ♡ スカートの中に頭突っ込んでミミのつるつるのおまんこ見せてあげる♡」

「くすすッ、スカート越しでもわかるぐらいに息荒くなってる♡」

「すっかりザコザコになっちゃった変態マゾお兄さんにはご褒美だったかなあ？」

「でも、ミミの攻撃はこれから、顔面騎乗攻撃だよッ♡」

「このままミミのおまんこをお兄さんの顔へ押しつけちゃう。えいっ♡ んん、んううう、どう？ ミミの中から、あふう」

「熱いお汁が溢れて、お兄さんの顔、びしょびしょにしてあげるね。それぞれ、それええ、ぐりぐり、ぐりりッ」

「まだ、いっぱいミミのお汁出て、あは、お兄さんぬれぬれだよ」

「もっと、ミミ、股間をお兄さんに押しつけてぐりぐりしちゃうね♡」

「あん、あんっ、どう？ 返事ぐらいしてよお？」

「くふふ、ミミの声も聞こえないぐらい、おまんこに夢中なんだ。はふはふ息荒げて、ミミのまんこのあま〜い匂い嗅いでるんだ」

「お汁も啜って、あふうう、舌を中に入れちゃったりして。顔面騎乗の攻撃なのに、お兄さん楽しすぎ。正義のヒーローの誇りとなくしちゃったのかな？」

「ねえ、ミミの知ってるお兄さんはもっとプライドがあって……メスガキ怪人に顔面騎乗されて、そのおまんこを必死にむさぼったりとか、しなかったんだけどなあ♡」

「あふ、あふうう♡ ああッ、おまんこのお汁ッ。じゅるじゅるうう、吸い過ぎらよお、あはあッ♡」

「いけない変態ヒーローなお兄さんを懲らしめるのにッ 顔面騎乗ハイパーモードだよ」

「ふとももでお兄さんの顔を挟んであげて、ミミの体重をお兄さんの、か、お、にっ♡」

「もう、ミミのことだけしか考えられないようにしてあげる」

「んふ、あはあ、体重掛けたら、お兄さんの鼻があひいい、ミミのおまんこに擦れて、あはあ、気持ちいいよお」

「ほら、揺すってもっと、感じちゃう、それそれそれッ」

「お兄さんは窒息しちゃうかもだけど、それも全部、ヒーローなのに変態すぎるお兄さんが悪いんだよ」

「悪い子には、ミミがエッチなお仕置きしないと、だからあッ♡」

「あは、あはあ、おまんこ、いい、いいッ」

「クリとか、はひ、おまんこの入り口とか、んひあああ♡」

「いっぱいごしごし、擦れてええ、お兄さんの顔面で、顔オナッ、最高すぎ♡」

「あはあ♡ あん、あん、あんッ、あひああッ、ザコヒーローさんでもミミの角オナアイテムにはちようどいいね♡ お鼻でぐりぐり♡ あは、あはは♡」

「でも、これ以上、お兄さんで楽しんじゃったなら、んひ、んひあッ、お兄さん、息できなくて、気を失っちゃうかも、ねえ、まだ平気だよね」

「降参だったら、プロレスみたいに、ミミの身体、はたいてね」

「あん、あはぁッ、お口にまんこ、ねじこまれて、いっぱいちゅばキスしてる」

「あふうう、あん、あんっ、ほらぁ、降参しないと、お兄さん、ダメになっちゃうよ。ねえ、ねえたったら……もう、仕方ないなあ、ミミのほうからやめてあげる。だって、お兄さんミミのおまんこで、このまま窒息死しそうだったんだもん」

「こんな恥ずかしい死に方ないよね、マゾいお兄さんにはお似合いすぎだけど♡」

「苦しくて動けないお兄さんは、そのまま仰向けでいてね。ミミは立ち上がって、あ、やだ、うそッ、くふふッ♡」

「お兄さん、ミミのまんこで窒息してたのに、オチンポ勃起してる。うわぁ、すごい、これがマゾってヤツなんだ。くすすッ」

「カウパーまで溢れさせて、あと少しで出しちゃうんじゃないの？」

「お兄さん、ちょっと我慢利かなさすぎ。早漏さんにもほどがあるよ、くすすッ♡」

「変態ザコなお兄さんには、お仕置き攻撃が必要だよな」

「ミミの足でいっぱい踏みつけマシンガンキック、お見舞いしてあげる♡」

「ちゃーんとマゾらしく、受けとめるんだよ」

「ミミの生足の先で、勃起チンポを、えい、えいっ、と踏みつけてあげる」

「くふふ、足で竿のどこか踏まれてるのに、感じちゃうんだ、えい、えい♡ マゾっておもしろい。こうやって、えい、えいッ、踏みつけるたびに。チンポ大きくして、それで踏んでもまた、起き上がって

くるんだあ」

「きゃははっ、正義の味方のお兄さんよりも、チンポのほうが不屈の精神持ってるかも」

「だいたい、こんなメスガキ怪人に顔の上へ乗られて、勃起だもんね」

「あは、お兄さん、出すの、出しちゃうの。チンポがビクビク震えて、射精の準備しちゃうてるし♡  
くふふッ」

「ミミが、こうやって、思い切り、踏みつけてあげるからッ♡」

「ああ、出るね、もう出しちゃうね、オチンポから無様にザーメンシャワー噴射しちゃうだよね？」

「あはは、ほら、もう我慢しなくていいから」

「びゆくびゆくびゆく、びゆく——ッ♡」

「足で踏まれて、射精しちゃうえッ、ほらあ——ッ♡」

「あは、出たあ、すごい量だね。あはあ、ミミの足にたっぷり絡んでる」

「ミミ、お兄さんのせーしの匂い好きだよ。ミミに負けるザコザコな悪い子の匂い。うふふ」

「このまま、敗北射精が板についてきたザコヒーローさんをメスガキ怪人のミミが、本気で屈服、洗脳してあげる、くふふッ」

「ミミ、お兄さんみたいなヒーローさんを悪いコに洗脳するのが楽しくて仕方がないの」

「完全屈服して、堕ちきったざっこい正義の味方さんを想像するだけで、あはあ♡」

「ミミ、イっちゃいそうなぐらい感じるんだもん♡」

「お兄さんのザーメンでべつとりの足で、このままチンポいじっちゃうよ」

「こうやってカ리를ミミの足先で摘まんで、しゅこしこ、しゅこしこッ」

「くふ、扱かれてるだけで、腰跳ねさせて、あは、悶えてる」

「だんだんオチンポにも芯が出て、おっきしてきたね。さっすがヒーローさん、悪の怪人にやられても、復活はやゝい♪」

「チンポだけはちゃんとスーパーヒーローしてるね、ぷく、くすくす」

「乳首はどうか。足先で、お兄ちゃんの乳首をこすこすするよ」

「こすこす、こすこす、こすこすこす、こすこすこす、こすこすこす」

「んふふ、もう勃起してきた、乳首もヒーローさんだね」

「でも、ミミみたいな女の子に足で乳首触られて勃起なんてお兄さんはマゾの中のマゾだね、すごすぎい♡」

「このまま足先でぎゅっと摘まんで、こねこねするね」

「ほらほらあ、こねこねこねッ♡」

「もっとおっきく勃起しろ、こねこねこね♡」

「だいぶ乳首おっきくなってきて、弱点丸出なんてダメだよ。でも、お兄さんはザコだから仕方ないか……自分から弱点さらけ出して負けたいアピールのザコヒーローさん♡」

「そんな悪い子にはミミのエッチな攻撃でお望み通り、気持よく敗北させてあげる」

「ミミのおっきなお胸を、お兄さんの胸へ押しあてながら……むっちむちのミミの太腿をお兄さんのザコ

チンポへ擦りつけちゃうね」

「ほらほら、あはっ、太腿でコスコスされてもオチンポ、大きくなってる、ザコすぎだし、くすすッ」

「ほらぁ、太腿のやわらかいところが、雁首に吸いつくみたい擦れるのいいのかな、ほらほら、こゝすこす、こゝすこす」

「くすすっ、また大きくなった、きゃはッ☆」

「本当にマゾいザコチンポだよねえ、くふ」

「どうしたの？ 胸もしてほしいんだね。いいよお」

「乳首責めをおねだりなんて、もうヒーロー失格だよね」

「ほら、ミミの勃起乳首を、お兄さんのザコ乳首に、重ねて……こすこすこす、こすこすこす、んうう、あはぁ、くすぐったくて気持ちいいよね」

「でも、お兄さん、乳首重ねられて、コスコスで感じるなんて、メスガキに負けるのが大好きなんて、ほんっと、ザコがお似合い♡」

「また、お射精しちゃうのかな、ザーコザーコって罵られながら射精しちやいたい？」

「は・い・ぼ・く、しゃ・せ・いッ♡」

「ああ、楽しみ、ほら、もっと勃起して、いっぱい敗北ザーメン、ミミに頂戴ッ♡」

「乳首で、お兄さん乳首をいじめながら♪」

「同時に太腿をす〜りす〜り、す〜りすり♡」

「こんなに勃起してるのにメスガキに負けちゃう、ザコチンポ、よわチンポ♡」  
「すりすりすりりっ、すりすりすりっ♡」

「あはあんっ♡、またカウパーお漏らしして、悪い子の匂い、んふふ」

「じゃあ、ミミのおマンコで負けさせてあげる。メスガキのトロトロおマンコ、ザコチンポさんにはお似合いの場所でしょ？」

「もう、お兄さん、ミミのメスガキ怪人まんこの責めに耐えられないと思うけど、最後ぐらいはヒーローらしく、頑張ってるね、くふ♡」

「んしょ、んしょっと、女の子に、メスガキに跨られて、見下ろされて、ザコチンポ握られて喜んじゃってるザコなお兄さんにとどめを刺してあげる」

「ガチガチザコチンポいただきます。んんっ、んふううっ……」

「もう、1回ハメただけでイきそうになってるっ、お兄さんザコすぎっ、んはあ、そうそう、ミミをもっと楽しませてね。 ああッ♡」

「動くよ、お兄さん、ザコチンポですぐに射精しないように我慢ね♡」

「あん、あんっ、ミミが満足するまで♡ それそれ、それええッ、腰をいっぱい動かしてッ」  
「チンポをずっちゅずっちゅ、責めちゃうからあ♡」

「ほら、もっと腰を動かして、ミミみたいなメスガキに負けちゃっていいの」



「はい、はいっ、お兄さんはミミのお馬さんだから、腰、しっかり動かせ♡」  
「あん、あんっ、やればできるじゃない、そらっ、もっと腰を突き上げて♡」  
「あはあ、そうそうっ、ざっこいお兄さんでもやれば、できるじゃない」

「あひいい、ヒーローらしいところ、見せてっ」

「バトルで新型怪人のミミに負けちゃってるけど、チンポなら、あひいい」  
「もしかして、ザコすぎなお兄さんでも、勝てるかも、あはあッ♡ あん、あん、あんっ、あはあんっ、ああッ♡」

「ミミのおマンコの中で悪い子チンポ突き立てるのっ、どう？」

「お兄さんはって、聞くまでもないね、顔必死すぎて、丸わかり」  
「もう、いっぱいいっぱいなんだあ、なっさけなくいい♡」

「セックスでもメスガキなミミに負けちゃうのお？」

「あはあッ、ほら、はいよっ、もっと動かないと、ミミ、イケないよお♡」

「チンポでおまんこ、突いちゃえ♡ もっと奥までっ、あはああ♡」

「メスガキに罵られながらっ♡ メスガキの子宮まで貫いちゃうの♡ ずぼずぼしてよお♡ ほらほらほらあッ♡」

「もう我慢の限界、チンポびくつかせて、射精したいんでしょ？」

「ホント、ザコチンポ、ざっこ、ざっこ、ざっこざっこッ」

「お兄さん、ざこすぎ♡ 正義の味方よりも、ざっこい戦闘員のほうがお似合いじゃない？」

「ヒーローさんなんて、もうやめちゃえば？」

「メスガキ怪人ミミの雑魚戦闘員の一人にしてあげる」

「そしたらあ、こうして、毎日ご褒美に、ミミのメスガキまんこでザーメンを強制バキュームしてあげるッ、んはあ、ああ、んはあッ♡」

「くふふ、もう出るの、出ちゃうのッ？」

「言わなくてもオチンポ、ビクビク震わせて、ミミにはわかちやうよお!？」

「ミミのおまんこに敗北中出し、しちゃったらッ♡」

「おまんこのヒダヒダでごしごしされながら、チンポ汁、びゅくびゅくびゅくるるるッ、ってどぴゅらせちゃえッ♡」

「ザーメン、ずりゅずりゅずりゅッ、ずりゅうううう♡」

「いっぱいバキュームされながら、お射精ッ♡」

「最っ高にッ、気持ちいいよぉ♡」

「それ、出しちゃえ、出しちゃえ、出しちゃえッ♡」

「出しちゃえ、出しちゃえ、出しちゃえ、出しちゃえ、出しちゃえ」

「メスガキに負けてぶりゅっぶりゅのザコ精子っ♡」

「特別濃厚ザーメン、どびゅどびゅどびゅう♡ どびゅるるるッ♡」

「びゅびゅびゅッ、びゅくびゅくびゅつくうう、どぴゅらせちゃえ——ッ♡」

「ああ、あはあああ、あんツ♡ すっごい量、熱くて、濃い精液いい」

「ミミにたくさん注がれて、あゝあ、ついに出しちゃったあ♡」

「メスガキ怪人まんこに、大量射精しちゃったあ♡」

「これでお兄さんはおしまいだね、くふふふツ♡」

「ああ、あはあああ、中出しされたおまんこが活性化してええ」

「お兄さんの精液をぜゝんぶ、吸い取っちゃうよおお♡ んふっ♡」

「ミミのバキューム、メスガキ怪人スペシャルバキュームっ♡」

「もう、み、ミミにもお、止められないからあ、あはあああ、まだ出るうう、貯めすぎお兄さん、ざっこいのにい、精液だけは、いっぱいだね」

「何ガロン溜まってるの？ そんな重要資源でもないのに、備蓄しすぎッ」

「お兄さん、あはあああ、出して、出して、まだ出てえ、でっかい備蓄タンクみたい♡」

「あはあああ、これだけ出されたら、ミミ、改造されたメスガキ怪人なのに妊娠しひゃうかも、ああ、おまんこも、子宮もいっぱい、あひんんツ」

「あそこから逆流してきてるうう——ツ、あつはあああ——ツ♡♡♡」

「もう、出しすぎだよお、早漏で、戦いも、チンポもザコザコザコっ♡」

「ザコすぎな、ヒーロー失格お兄さんだけど、チンポ精液の量だけはすっごいいい」

「そこだけはメスガキ怪人ミミが褒めてあげるう、あはあああ、まだ出して♡」  
「ザーメンの量と熱だけは、レジェンドヒーローだね、くふふッ♡」

「でも、これだけ精液ずっと出してたら、あん、あはあああ」

「もう頭の中、射精快楽でとろとろに蕩けきって、バカになっちゃってるよね」  
「バカは正義のヒーローなんてできないから、もう引退確定だね。くすくす」

「騎乗位で、お兄さんにザーメン注がれながらだけど、あはあああッ。お兄さんをザコ戦闘員にしてあげるよ♡」

「あはあああ、ザーメン注がれながら洗脳してあげるとみんなとってもいい悪い子になっちゃうの。だから、お兄さんも、ね♡」

「あひいい、チンポ突き上げるのだけはっ♡ 強い♡ ほんとザコ♡」

「でも、でも♡ これぐらいの必殺技じゃメスガキ怪人は倒せないよ♡」

「今度はミミの番だね♡ ん♡ レロ……ちゅ、んっ……んふっ♡ ぷはっ♡」

「ミミの唇美味しかった？」

「どんな大人もいい子も悪い子も、みんな蕩けてミミのことを聞いてくれる素直な悪い子になっちゃうの」

「あは♡ 全然抵抗できずに洗脳されちゃってるね♡ お兄さんにお似合いのザコザコなとろけ顔。なっ

さけなーい……でも、とってもかわいいよ」

「これで、お兄さんも立派なミミ専用の悪い子、ザコ戦闘員だね♡」

「ザコ、ザコ、ザコ、ザコ、ザコ」

「あはあッ、ザコ呼ばわりされて、まだチンポ大きくなって、ああッ、うれしそう。くふふッ、ミミも、お兄さんみたいな悪い子でマゾ奴隷のザコ戦闘員さんが増えて、うれしい♡」

「お兄さんはヒーローよりも、絶対にザコ戦闘員さんがお似合いだしね♡」

「ああ、あはああ——ッ♡ お兄さん、全然反論しないし」

「心の底まで、ザコに墮落しちゃったんだね……」

「はあはあはあッ、そういう、ちょっといきってた大人やいい子のオチンポが徹底的に虐められて、快楽に心折れちゃって、最後は負けてッ♡ ザーメンお漏らし止まらなくなちゃうの、ああ、ミミ、好き、だい好きだよ」

「ザコ戦闘員さんも好きでしょ？」

「メスガキに負けて敗北射精するのが大好きなザコチンポ」

「ああ、あはああ♡ イっちゃえ！ ミミのおマンコに負けていっぱい出しちゃえ♡」

「来た来た来た♡ ザコザコ精子、ビュルるって出しちゃってる♡♡♡!!!」

「ミミもザコ戦闘員さんの負け顔見てイっちゃう！ んあ♡♡ あ、ああ♡♡ あっはああああ♡♡♡」

「はあ♡ はあ♡……あはは♡ もっと、遊ぼう♡ もっと、エッチしよう♡ ね♡ メスガキに負け

るの大好きなザーコなお兄さんは、いっぱいいっぱい負けて射精しておもちゃにされるの。ずっとずーとっ♡」

「あは、これからもミミのオチンポ奴隷よろしくね。ザコ戦闘員さん」

「くっふふふ、ザーコ、ザーコ♡」